

企業の社会的責任と経営者の役割

神奈川県技術士会 環境マネジメントセンター 西本 義男

1.はじめに

今の世の中、企業を経営するのは並大抵のことではありません。曰く品質、曰く価格、曰く安全、曰く環境、そして雇用、これら全てが企業の社会的責任(CSR)と結びついています。今日ほど、このCSRが強く叫ばれ、求められるようになった時代はありません。

2.CSRとは？

既にこのシリーズで何度も出てきましたが、「CSRとは何か」をおさらいしておきましょう。

1. 先ず、法令を順守し、その事業を通じて収益を確保すること。

2. また、社会を構成する法人として活動し、持続的に発展すること。

3. そして、これらの行動を効果的に運用する仕組みを作り上げることです。

この考え方は消費者優位の立場から今や世界的な広がりを示しています。

企業の存続や発展に関わりのある個人や団体、即ち利害関係者にとって、役に立ち、危害を与えないものであるために、顧客、従業員、取引先、株主、地域社会などとの対話による理解を深めてゆくのです。

3.経営者の役割は？

このCSRを推進する上での経営者の役割は、何でしょうか。

ルールを守ること、良いもの及びサービスを適正な対価で提供すること、職場も提供された品物やサービスも安全であること、物を作ったりサービスを提供したりする環境も守られていること、などを的確に進めるための按配をすることでしょう。

その中で、先ず、何が重要なことかを決め、方針や目的・目標を定めること、これを実施させること、及び実施状況を点検し、見直しをすることです。工夫と努力も欠かせません。

中でも大事なのが人です。ものづくりもサービスもそれなりの施設、設備、器具が必要

ですが、矢張り最後は人です。社内では、企業の目的・目標に適した人材を選び、育て、仕上げ、適所に配置すること、社外では、製品やサービスの提供等を通じて、利害関係者との対話と連携こそ、経営者の最大の役割です。

4.「何故だ？」

最近のテレビ・新聞で報じられる企業の不手際で必ず見られるのが、経営陣の記者会見で経営者が頭を下げることです。これを見るたびに、こんなことしただけでは済むまいにとか、こうなるまでに何か打つ手はなかったものだろうかとか、また、これ(記者会見)をしなくても良い方策はなかったものかとかとつくづく思います。

たとえば、ISOの品質システムや環境マネジメントシステムを採用していたらどうであったらうか、あるいは、企業の倫理観に問題があるのかもしれない、等と考えます。

ISO 9001(品質マネジメントシステム)やISO 14001(環境マネジメントシステム)は、今日CSRを実行するための手段として、広く活用されていて、品質や環境の管理に留まらず、これらのシステムの適切な運用を通じて企業倫理の醸成にも役立つようです。

こうした仕組みを採用するかどうかを決すること、CSRを実行するための経営者の役割ともいえましょう。

5.まとめ

企業の社会的責任を果たす上で、経営者の責任が大きいのは言うまでもないことです。国内外の失敗事例を見ても、一寸舵取りが間違ったり、遅れたり、あるいは、工夫と努力が足りなかったりしたために発生しています。

問題が発生してから手を打つのでは遅い時代ですから、品質も、安全も、環境も、予防を重点にマネジメントシステムを構築することが必要になったのではないのでしょうか。